新規就農から、地域農業の担い手へ

JAバンク佐賀では「持続可能な農業の実現」に向け、新規就農希望者からベテラン農業者まで幅広い支援を行っています。JAバンク佐賀を利用した生産者の「生の声」をお届けします。





堤 祐輔 さま ｜ 農業生産 ｜ 施設きゅうり 47a・水稲 10ha・露地野菜

就農のきっかけ

堤氏の父が兼業農家で、幼いころから農業が身近にあり、父は退職をきっかけに農業一本で地域農業の担い手として２０ha程の土地利用型農業をされていた。堤氏は福祉施設等で勤務していたが、「農業で地域を盛り上げたい」、「地域中心の農業経営をしたい」との思いがあり施設胡瓜で新規就農された。

実家で農業に取り組む父の姿を身近に見て育った事が就農を考える原点となり、父の歩みを受け継ぎながら自らも地域農業の担い手として役割を果たすため、「地域中心の経営体」を経営理念に営農されている。

就農して苦労したこと

平成31年9月の新規就農時に直面した課題として、技術・知識習得の面において苦労され、きゅうり部会の仲間やＪＡの営農担当者からの助言や支援等を受けながら、知識の習得に加え、日々の栽培管理を積み重ねながら、技術レベルの向上に努められました。

また、就農翌年には予期せぬ事態が堤さんを苦しめることとなりました。
世界中で、「新型コロナウイルス感染症」が蔓延し、売上が減少する一方で経費が増加するなど農業所得を伸ばすことができない厳しい状況にも直面されました。

経営の安定に向けて取り組んだこと

堤氏は経営安定の取組みとして、「販路拡大」に目を向けられ、ＪＡ出荷の他に自ら市場やＪＡ直営や系統外も含めた産直等に交渉し、販路の拡大による収益確保に取り組まれました。

佐賀県の農業法人協会に入会され、会員同士の繋がりを広げるとともに、当法人協会が主催される研修会をはじめ、県などの機関が開催する研修会等にも参加され、全国の優良農家の取組みを参考に積極的に栽培技術レベルの向上に向けた取組みを実践されている。

こうした学びを栽培技術に活かすとともに、販路の選択肢を広げることで、経営基盤の強化を目指されている。

JAバンク担い手コンサルの活用について

青年部活動を通じ、「JAバンク担い手コンサル」の取組みを知り、自ら立候補され、自身の目指す経営体に近づけるため、経営理念や将来像を整理し、現状の課題と今後の取組み（改善策）を確認する機会として活用されています。
ＪＡバンク佐賀では、農業者の思いを丁寧に伺い、課題の整理から経営の安定・成長に向けた取組みまで伴走します。



JAバンク佐賀